

事務局：〒480-1198 愛知県長久手市茨ヶ廻間 1522-3 愛知県立大学  
宇都宮研究室 ☎ 0561-76-8702 ✉ utu(@)ews.aichi-pu.ac.jp

振込口座：ゆうちょ銀行 01730-8-125532 社会事業史学会

## ◆◆【会長就任挨拶・大会長挨拶】◆◆

2024年5月12日の総会で、会長に選出して頂きました東洋大学の金子光一です。伝統ある社会事業史学会（以下、本学会）の会長を2期にわたって担わせて頂くことになり、大変光栄なことと思っております。2027年5月まで精一杯務めさせていただきますので、引き続き、お力添え頂きたく宜しくお願い申し上げます。

さて、2024年5月11～12日、第52回全国大会を私の本務校である東洋大学赤羽台キャンパスで開催させて頂きました。お陰様で100名近い方々にご参加頂き、盛会に終えることができました。心より感謝申し上げます。

今回の大会には、中国慈善史学会・会長の周秋光先生、韓国社会福祉歴史学会・会長の林元善先生をお招きすることができました。また両先生と「日本・韓国・中国における学術交流の推進に関する覚書」（通称「三カ国覚書」）の調印を行わせて頂きました。これにより今後益々三カ国の国際交流が活発化することを願っております。



金子光一 会長

東洋大学の学祖・井上円了は、1887年（明治20）年に東洋大学の前身の哲学館での教育活動を、春日局の菩提寺として有名な麟祥院の一角をかりてスタートさせました。円了は、その時に「哲学館創立の精神」という言葉を残しています。

「哲学館創立の精神は、晩学の者、貧困者、語学力のない者に教育の機会を開放するということである。」

年を取ってから学問を志す人、お金のない人、これまで語学を学ぶ機会がなかった人が、世の中に多くいて、それらの人たちの学びの「場」として哲学館を創立しました。そこには、学問をするのは若くなければならないと



(2024/5/11 調印式)

か、お金がなければならぬとか、語学力がなければならぬなどの古い明治の価値観を転換し、「新たな価値」を創造しようとする精神（アントレプレナーシップ）があったように思います。

価値は不変ではなく変わるものです。現在、科学技術・情報通信分野を中心にさまざまな領域で新たな時代に即応した価値を創造することが求められています。生成系 AI に対応するためのルール作りも、合理的配慮の提供の義務化なども、「新たな価値」に基づいているものです。これからは、これまでの考え方や方法に固執せず、「新たな価値」を創造し、よりよい社会を共につくることが重要だと考えます。本学会も歴史研究を行う学会ではありますが、常にそのことを意識しなければならないと思います。

なお、本学会は、50周年を迎えるにあたり「学会創設 50 周年記念事業委員会」を設置し、『記念論文集』の出版、『50 年史』の刊行、「50 周年記念大会」の開催という三つの大きな柱をたて、記念事業を推進して参りました。会員の皆さまのご協力で『記念論文集』は、2022 年 10 月末に近現代資料刊行会より発行することができ、『50 年史』も今年 12 月に刊行予定です。

「50 周年記念大会」は、共通論題報告において、3 回にわたって日本の近現代史を取り上げました。まず、オンラインで行いました 2022 年の第 50 回大会では、1950～60 年代を中心に、社会福祉の「制度・政策」「実践・方法」の特質を歴史的視点から明らかにしました。また、昨年 2023 年の第 51 回大会は、千葉県にある淑徳大学を会場として対面で開催しましたが、1960～70 年代を中心に教育、労働、経済、社会など幅広い視野から戦後史を考え、隣接領域との関係を踏まえて社会福



(2024/5/12 共通論題報告)

祉の位置づけを確認しました。そして今回の第 52 回大会では、日本の福祉専門職の到達点と今後の課題について、専門職を取り巻く構造の変化を踏まえながら、ご参加頂いた皆さまと検討しました。

今回の共通論題報告は、日本のソーシャルワークの歴史の総括といえるように思います。地域共生社会の実現」が叫ばれる今日、地域社会でニーズを抱えている人たちを支援する「主体」が変化すると同時に、社会福祉専門職を取り巻く状況は大きく変わってきています。歴史的に積み重ねてきたものをどう評価するのか、反省すべき点はどのような点なのか、社会福祉の専門職の立場とあり方に関する有益な議論ができたように思います。ご登壇頂いた皆さまに心より感謝申し上げます。

来年の第 53 回大会は、青森県弘前市にある弘前学院大学で開催します。大会の詳細については、理事会内の研究委員会を中心に検討を重ね、改めて会員の皆さまにお知らせしますが、「50 周年記念大会」後の大会ですので、「新たな価値」を創造できる大会を目指したいと思います。

まだ山頂に雪が残る岩木山と可愛いりんごの花をいたるところで目にすることができる弘前市で、本学会の大会を来年 2025 年 5 月に開催できますことを大変嬉しく思います。皆さま、奮ってご参加頂きたくお願い申し上げます。  
(金子光一)

## ◆◆【事務局報告】第52回大会の報告とお礼◆◆

社会事業史学会第52回大会が、2024年5月11日（土）から12日（日）の2日間にわたり、東洋大学赤羽台キャンパスにおいて開催されました。

参加者は、事前申込81人（会員66人、非会員5人、院生10人）、当日申込15人（会員8人、非会員7人）の計96人でした。

1日目午前の若手研究者研究交流会では博士後期課程の院生3人からの報告がありました。発表時間40分（報告25分、質疑応答・助言等15分）で、フロアのベテラン研究者からの助言や院生等との活発な交流がみられました。1日目午後の自由論題報告は、発表時間40分（報告30分、質疑応答10分）で、4つの分科会に分かれ、16題目が報告されました。「日本・韓国・中国における学術交流の推進に関する覚書」に基づく国際学術交流も定着してきました。韓国から、張英美氏（三育大学校大学院）・鄭鍾和氏（三育大学校）による「韓国における障害者自立生活運動の歴史的変遷と今後の課題」の研究報告をいただき、中国から、周秋光氏（湖南師範大学）・万佳敏氏（湖南師範大学）・李慧君氏（湖南省博物院）「慈善

近代化に対する社会の流れの駆動作用と現代の啓示について」の研究報告をいただき、フロアとの活発な議論がなされました。

2日目の共通論題報告（シンポジウム）のテーマは「日本の戦後史（3）日本の福祉専門職の到達点と今後の課題～専門職を取り巻く構造の変化を踏まえて～」でした。シンポジストは小山聡子氏（日本女子大学）、大西次郎氏（大阪公立大学）、松本園子氏（白梅学園大学（名誉教授））、佐藤昭洋氏（東洋大学）の4人で、コーディネーターは鈴木敏彦理事（淑徳大学）、コメンテーターは木原活信氏（同志社大学）で、11時から16時にかけて、専門性と当事者性・「精神保健福祉」通史・保育士制度、福祉労働者論及び福祉専門職論に関する貴重な報告が行われ、活発な質疑応答がありました。

参加して下さった会員・非会員の皆様、シンポジストの皆様、ご協力いただいた開催校の東洋大学の先生方や大学院生・学部生の皆様に心から感謝いたします。ありがとうございました。

（宇都宮みのり）

## ◆◆名誉会員からの挨拶◆◆

2024年度総会において、岡田英己子会員が名誉会員に推挙され、承認されました。

社会事業史学会・名誉会員

岡田 英己子 殿

貴殿は、本学会の前身の社会事業史研究会の頃より、拡大世話人会のメンバーであり、2000年より通算10年間にわたり理事・監事を歴任されるなど、長きにわたり本学会の発展に貢献されました。よって社会事業史学会規約第9条および社会事業史学会名誉会員選出規則第2条2項により、名誉会員の称号を授与します。

2024年5月12日

社会事業史学会会長 金子 光一

### 【岡田英己子名誉会員挨拶】

「学問の碑」の序幕の式典。これこそが吉田久一先生の生きた証であり、全てであったと、思います。

式典は2005年10月23日に挙行されました。天女がそれを寿ぐかのような晴天の秋晴れの日に弟子が集い、学の請願を、決意を込めてした姿を、恩師吉田は忘れてはいないでしょう。その学の請願の座に居合わせた弟子たるものの所業を、慈愛と厳しいまなざしで見つめ続けているはずです。社会事業史研究会という存在こそが、学者としての恩師が未来に託そうとした希望であったからです。この恩師の期待と激励を、日々の恩師との対話の中でも痛感しております。岡田にとっては、恩師なくしては社会事業史研究で職を得ることはとうていかなわなかったからです。

恩師との共著『社会福祉思想史入門』（勁草書房 2000年刊行）のあとがきに岡田は書いてお

りますが、恩師の「これで私の務めは終わった」の真意も、ようやく最近になって気づき始めております。一度だけ最晩年の恩師に、「先生ご自身の業績を受け継ぐ方は」という質問をさせていただきました。恩師は吉田著作集第1巻を手にとられ、「これだ！この本を読んだ人が、僕の後継者だ！」と大音声で断言され、次いで彼方の天空を見つめるまなざしで、「21世紀半ば頃にその方は出てくる」との予言をされております。岡田がしている今のドイツ福祉職の歴史研究は、まだ見ぬその方への懸け橋になることでしょう。

若き世代の方々に、恩師が託された期待をお伝えすることでもって、挨拶に代えさせていただきます。

（岡田英己子）

## ◆◆【第42回社会事業史学会文献賞授与】◆◆

社会事業史学会文献賞審査委員会における審査の結果、2名に授与することとなりました。

### 第42回社会事業史学会文献賞

井川裕覚殿

対象作 『近代日本の仏教と福祉—公共性と社会倫理の視点から—』（2023年1月 法蔵館刊）

#### 審査結果

本著は、2021年上智大学に提出した博士論文の公刊である。宗教者である著者の問題意識に意欲的に取り組んだ研究である。「公共空間」という概念装置を設定し、仏教のみならず、キリスト教の活動も視野にいて、個別の実践事例を踏まえつつ、宗教界の福祉活動のよって立つ公共性、倫理性を明らかにしようとした。また、仏教界で十分に評価されてこなかった女性の実践活動を評価している点で、男性中心の宗教界に一石を投じている。社会事業史研究としては、その視座のユニークさ・独創性が際立っており、文献賞の受賞にふさわしいと判定された。

2024年5月12日

社会事業史学会会長 金子 光一



(2024/5/12 表彰式での井川会員)

#### 【井川裕覚会員挨拶】

東北大学に在籍しております井川裕覚です。このたびは光栄な文献賞をいただけたということで、社会事業史学会の理事の先生方、ご選考いただいた先生方に感謝申し上げます。改めて所信を表明することで、お礼の言葉にかえさせていただきます。

非常にまだ粗削りな研究論文であり著作であると皆さまお感じになられていると思います。たとえば資料収集の甘さであるとか、実証の弱さ、公共性という概念の恣意性などさまざまな課題をい

ただいています。これは博士論文を書いていく中で、若手研究者自身が抱えている問題でもあり、それに応えたいという思いがありました。

この度の賞の選考委員長を務めていただいた大友昌子先生に社会事業史学会に入りなさいと誘っていただいて、2019年年次大会の若手研究者研究交流会で報告させていただきました。その時に大友先生に「ご指導をいただけませんか」とお願いしたところ、「まだまだダメね」と言われました。何がダメかということ、事例を見るということはわかったが、事例を蓄積することで、マクロな視点で何を問おうとしているかわからないと言われました。社会事業史研究を通して、私は何を明らかにしようとしているか、何を問おうとしているかを考えさせられる契機となりました。心が折れそうになった時もありましたが、大友先生にいただいた言葉を胸にその問いを追究してきました。

そもそもの大友先生との出会いは、淑徳大学で開催された吉田久一シンポジウムでした。社会事業史学会、日本仏教社会福祉学会、日本近代仏教史研究会という、吉田久一先生から波及した3つ

の学会で対話しようとする試みでした。そのとき、この対話を私は博士論文のテーマの一つにしようと考えたのです。そこで、私が専門とする宗教社会学の立場から、公共性という概念を軸にしました。3つの学問を繋げるには学際的な視点が必要となります。そのため、先行研究を広く浅く見ることとなり、資料の実証性が不十分になってしまった。若手研究者が、学際的かつグローバルな視点で研究を進めていく際に、どう取り組んでいくか、どう乗り越えていくかことができるのか。社会事業史学会の先生方からご指導を受けながら、実証していくことが重要と考えています。仏教に着目する視点から公共性をテーマにしましたが、キリスト教との比較や、ジェンダー研究への目配りなど、横断的に取り組んできました。今後もさまざまな研究者と対話しながら進めていきたいと考えています。

もう一つ、私は働きながら研究をしてきました。私は仏教僧侶として社会実践を重視しながら

研究をしてきました。また、吉田久一先生のご研究の再検討もテーマとしました。淑徳大学のあの大巖寺の境内に「学問の碑」があります。そこには、このように記されています。

「福祉と宗教と平和が生涯の願いであり、私の学問研究のすべてでありました。」

吉田久一先生はこうしたテーマを掲げ、研究・実践に取り組まれました。私はこのメッセージを心にしっかりと刻んでいます。何を明らかにするのかだけでなく、福祉の歴史研究を通して社会にどう問いかけていくかという視点も重要です。研究のための研究にとどまらず、今後は学問の実践性を追究したいと考えています。

粗削りな著作ではありましたが、文献賞をいただいたことを糧に、これからも研究に取り組んでいきたいと思えます。所信表明を申し上げて、私からのお礼の言葉に代えさせていただきます。

(井川裕覚)

#### 第42回社会事業史学会文献賞

今井小の実殿

対象作『福祉国家の源流をたどる—Her/His Story を超えて—』(2023年3月 関西学院大学出版会刊)

審査結果

本著は、ジェンダー論など多くの研究を世に問うている著者の、これまでの発表論文をまとめた著作である。本書が高く評価される点は、日本の福祉国家成立の前史をジェンダー論の分析視角から論じ、社会事業史研究への新たな方法を提示した点にある。個々の論考は明確な問題意識で実証されて質が高い。論理も明快で読みやすく、新たな視点を、史資料を用いて意欲的に論述しており、文献賞の受賞にふさわしいと判定された。

2024年5月12日

社会事業史学会会長 金子 光一

【今井小の実会員挨拶】

このたび賞をいただきました今井です。審査に関わってくださった先生方、理事の先生方、すべての先生方に感謝申し上げます。めったに緊張しないのにとっても緊張してしまっています。

私は、90年代半ば恩師の小倉先生から社会最事業史学会の大会に参加するようにと勧められ参加しました。その時宇都先生と菅沼先生が報告されておられて、素晴らしい研究者の会だと思えました。その時に永岡先生から「この研究会は特別、優秀な方々がおられる会なのだ」と言われ



(2024/5/12 表彰式での今井会員)

て、そのような会で賞をいただけたことを本当に嬉しく夢のように思います。

審査員の先生方からご指摘されたことはその通りだと思いますが、私がこの本を書いた意図は、her/his story というサブタイトルに込めています。私自身は博士論文でもポストモダンの理論に依拠した手法を一部、利用していますし、院生にもそのように指導をしています。その意義を認めつつも、極端な相対主義があたかもその歴史的事実がなかったかのように、物語のように変えてしまったことに対して、徹底的に実証主義で研究をしていきたいと思って臨みました。

そしてもう一つ、今までの歴史は男性のフィルターを通して語られていました。研究の途中で、女性の側から問題設定をして、そのバックに男性

側から見た歴史の新たな発見があったのでそのようなタイトルにしました。

私はこれからどれくらい研究を続けられるかわかりませんが、この賞をいただいたこと、賞のために支援をしてくださった方がおられます。例えば、推薦してくださった先生、校正の手伝いをしてくれた院生さん、なによりも形成史研究会の先生方、本日会場には杉山先生、元村先生、樋田先生がおられますが、そのメンバーの先生方にもお礼を言いたいと思います。これからもそのメンバーとつながっていきたいと思っています。そして形成史研究会に誘ってくださった、今は亡き池本美和子先生に捧げたいと思います。ありがとうございました。  
(今井小の実)



(2024/5/12 表彰式での今井会員と金子会長)

## ◆◆【第14回吉田久一研究奨励基金（刊行費助成）】◆◆

社会事業史学会文献賞審査委員会における審査の結果、下記の1名に授与することとなりました。

### 第14回社会事業史学会吉田久一研究奨励基金（刊行費助成）

岡本周佳殿 対象作『戦後の日本における学生セツルメント史—社会福祉史研究の立場から—』

#### 審査結果

本著作は、戦後の学生セツルメント運動史について、その全体像に迫る包括的な通史研究として開拓的である。かつ本著作は膨大な一次資料と聞き取りにもとづく力作である。筆者は、戦後の学生セツルメント史を戦前との関係を踏まえ、再興期、組織構築期、組織展開期、組織変容期、1990年から現在と、5期に区分し、4つの視角から考察している。全体の構想がよく練られており、各事象の考察も多角的かつ総合的に考察されている。活動のリーダーの思想の考察に終わるのではなく、実践場面に下降して、学生と子どもとの関係性、子ども達同士の関係性、学生と地域住民との関係性とその展開に目を向けている点が高く評価できる。よって、本著作は、第13回吉田久一研究奨励基金・刊行費助成にふさわしいと判定された。

2024年5月12日

社会事業史学会会長 金子 光一



(2024/5/12 表彰式での岡本会員)

#### 【岡本周佳会員挨拶】

このたびは、吉田久一研究奨励基金の刊行費助成に採択いただき、大変嬉しく思います。審査の労を取っていただきました吉田久一研究奨励審査委員会の先生方をはじめ、学会運営に携わってくださっている先生方ならびに皆様に心よりお礼申し上げます。

私自身は、2019年度に吉田久一研究奨励賞の研究助成も頂戴しました。本来であれば、皆様の前でご挨拶したかったのですが、折しも新型コ

ロナウイルス感染症の影響で学会が中止となり紙面でのご挨拶となりました。今回、皆様の前で直接ご挨拶させていただけることを大変ありがたく思います。私にとって、社会事業史学会は、私の研究の意義を認めてくださった場です。その意味でも、学会への感謝をいつも感じております。

さて、このたび、刊行費助成を活用させていただいて出版いたします書籍は、学生セツルメントの戦後史に関する研究で、博士論文での成果をもとに、その後の新たな研究成果も含めた内容となっております。これまで、セツルメントについては地域福祉施設型のものに注目がなされてきたなかで、大学生によるセツルメントに注目をした研究は限られています。また、その大学生によるセツルメントも、これまで一面的・固定的な見方があるなかで、そうした見方に対しても一石を投じるものになればと考えています。今回預かりました榮譽に対してご恩返しができるよう、出版に向けて進めていきたいと思っております。



今回このような榮譽にあずかれましたことは、修士課程、博士課程をご指導くださった永岡正己先生の支えによるものとても大きいと考えております。この場を借りて永岡先生にも一言お礼申し上げます。本当にありがとうございます。

最後に、改めまして審査委員会の先生方ならびに皆様に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございます。今回の採択に恥じないよう、今後も精進し、学会へのご恩返しも少しずつしてまいりまますので引き続きのご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

以上で、簡単ながら私のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。(岡本周佳)



(2024/5/12 表彰式での岡本会員。細井理事・永岡理事・金子会長と共に)

## ◆◆第13回若手研究者研究交流会報告◆◆

第13回若手研究者研究交流会およびランチ・ミーティングが、大会1日目(5月11日9:30-12:15)に開催されました。昨年の第51回大会(淑徳大学)同様、対面開催でコメントーターの先生やフロアのみなさまから指導・アドバイスを直接受けられる方式で開催いたしました。土曜日午前のプログラムでしたが35名の方にお集まりいただきました、心より感謝いたします。

今回も3名の方がエントリーしてくださり、塩田芙美さん(奈良女子大学大学院)から「島田正蔵の新教育思想~小学校・少年院・教護院における実践を貫く児童中心主義~」、小坂亜希子さん(イースタン・フィンランド大学大学院社会科学博士課程修了)から「社会事業史研究における研究者の「立場性」について」、そして柳下草太さん(関西学院大学大学院)から「近代日本における部落問題政策の成立過程に関する政治史的研究」のテーマでご報告いただきました。

それぞれの報告者に対してコメントーターから有益なご助言をいただくことができ、研究の更なる発展につながる機会になりました。

またその後のランチ・ミーティングにおいても引き続き活発な意見交換が行われ、盛況のうちに終了することができました。

次回も開催予定ですので、ご参加お待ちしております。

(若手研究者支援担当 石川衣紀)



(2024年5月11日若手研究者研究交流会の様子)

## ◆◆ 会員動向 ◆◆

### (1) 動向

- 【2020年5月8日現在】 会員総数 312名
- 【2021年4月19日現在】 会員総数 319名
- 【2022年5月14日現在】 会員総数 316名
- 【2023年5月9日現在】 会員総数 315名
- 【2024年4月24日現在】 会員総数 308名

### (2) 入会承認者（敬称略、以下同）

- 【2023年9月30日付】 米田美紀・魯洙彬・増田京子
- 【2023年12月2日付】 細川富美子
- 【2024年4月1日付】 鬼塚香・荒木実代

### (3) 退会者

- 【2023年9月30日付】 笛木俊一・生田大地
- 【2024年3月4日付】 梶原敏明
- 【2024年3月26日付】 相澤譲治・岡田靖雄・中島豊
- 【2024年3月31日付】 井岡勉・井村圭壯・蒲生俊宏・古宇田亮修・藤井常文・本多創史・吉田清子

## ◆◆ 2023 年度事業報告 ◆◆

- 1 機関誌『社会事業史研究』（第63号）発行（2023年12月）
- 2 学会ニュースレター（No.34）の発行（2023年9月）
- 3 第51回大会開催（2023年5月13日～14日、淑徳大学：対面）
- 4 学会第13回若手研究者研究交流会（2023年5月13日、淑徳大学：対面）
- 5 第3回中国社会史学会慈善史専門委員会年次大会（青島海洋大学）への参加（2023年10月10～13日、2名）
- 6 第17回韓国社会福祉歴史学会秋期大会（ソウル）への参加（2023年12月15日、2名）

# ◆ 2023 年度会計報告 ◆

## (1) 一般会計資金収支決算書

勘定科目		2023 年度 予算額 (A)	2023 年度 決算額 (B)	備考
収 入	1.繰入金収入	767,653	767,653	
	2.会費収入	2,456,000	2,312,975	267 名分 (複数年納入あり)
	3.寄付金収入	10,000	0	
	1.一般寄付金	10,000	0	
	2.その他の寄付金	0	0	
	4.売上収入	401,000	577,115	
	1.機関誌売上	400,000	577,115	社会事業史研究売上 (Vol.61,Vol62) として
	2.史資料ガイドブック	1,000	0	
	3.その他	0	0	
	5.事業収入	0	34,912	
	1.大会開催補助金戻入	0	34,912	51 回大会戻入金として
	6.受取利息配当金収入	10	100	
経常収入計		3,634,663	3,692,755	
支 出	1.事務費支出	720,000	821,736	
	1.事務費	120,000	120,734	振込手数料・文献賞/吉田久一関 連書類作成・名誉会員記念品・ 会計事務/監査事務アルバイト代 (37,26H) として
	2.事務委託料	600,000	701,002	会員管理(個人情報保 護)465,588、HP 管理 123,200、オンライン投票委 託 112,214 として
	2.事業費支出	1,870,000	1,857,415	
	1-1.大会開催補助費(51 回)	0	2,504	
	1-2.大会開催補助費(52 回)	600,000	600,000	
	2.機関誌印刷代	750,000	1,017,055	印刷代 886,765、保管料 55,000、発送費 75,290 とし て
	3.編集委員会経費	300,000	26,724	
	4.歴史教育委員会経費	0	0	
	5.国際交流委員会経費	50,000	72,600	三か国情報交換会費用として (51 大会にて情報交換会不開 催のため)
	6.史資料問題委員会経費	0	0	
	7.文献賞経費・吉田久一研究奨励賞	100,000	138,532	文献賞候補 5 件、吉田基金候補 2 件の審査にかかる費用として
	8.右田研究奨励基金審査委員会	30,000	0	
	9.50 周年事業委員会経費	20,000	0	
	10.社会福祉史辞典編集委員会経費	20,000	0	
	3.学会連合等会費	50,000	50,000	0
	4.繰入金支出	994,663	963,604	
経常支出計		3,634,663	3,692,755	

## (2) 2023 年度 特別会計資金収支決算書

勘定科目		2022 年度 繰越金(a)	2023 年度 入金(b)	2023 年度 出金(c)	残高 (a) + (b) - (c)
入金・ 出金	1.社会事業史学会文献賞副賞	6,229,701	2,124	401,026	5,830,799
	2.吉田久一研究奨励賞副賞	25,210,154	212	0	25,210,366
	3.右田基金副賞	10,000,182	84	0	10,000,266
	4.すみ基金	7,707,802	0	0	7,707,802
	5.指定寄付金	2,001,094	36	0	2,001,130
	6.50 周年記念	2,334,753	0	0	2,334,753
	7.40 周年記念事業指定寄付金	690,000	0	0	690,000
	合計	54,173,686	2,456	401,026	53,775,116

## ◆◆2024 年度事業計画◆◆

- 1 機関誌『社会事業史研究』発行（第 64 号）
- 2 学会ニュースレター発行（No.35）
- 3 第 52 回大会（2024 年 5 月 11 日～12 日、東洋大学：対面）
- 4 若手研究者研究交流会（2024 年 5 月 11 日、東洋大学：対面）
- 5 『学会創立 50 年史』刊行
- 6 『社会福祉辞典』刊行
- 7 中国社会史学会慈善史専門委員会との学術交流
- 8 韓国社会福祉歴史学会との学術交流

## ◆◆2024 年度予算◆◆

### (1) 一般会計資金収支予算書

勘定科目		2023 年度 決算額 (A)	2024 年度 予算額 (B)	備考
収入	1.繰入金収入	767,653	963,604	
	2.会費収入	2,312,975	2,376,000	会員 308 名-名誉会員 11 名=297 名の 年会費
	3.寄付金収入	1,000	10,000	
	1.一般寄付金	0	10,000	
	2.その他の寄付金	0	0	
	4.売上収入	577,115	201,000	
	1.機関紙売上	577,115	200,000	2023 年度から年 1 号発行
	2.史資料ガイドブック	0	1,000	
	3.その他	0	0	
	5.事業収入	34,912	0	
	1.大会開催補助金戻入	34,912	0	
6.受取利息配当金収入	100	100		
経常収入計		3,692,755	3,550,704	
支出	1.事務費支出	821,736	820,000	
	1.事務費	120,734	120,000	
	2.事務委託料	701,002	700,000	会員管理 (個人情報保護)、HP 管理
	2.事業費支出	1,857,415	1,995,000	
	1.大会開催補助費(51 回)	2,504		2023 年度決算第 51 回分差額
	1.大会開催補助費(52 回)	600,000	600,000	2023 年度決算第 52 回分、2024 年度 予算第 53 回分として
	2.機関誌印刷代	1,017,055	900,000	
	3.編集委員会経費	26,724	200,000	郵送料及び、委員会開催時の委員の交通 費等として
	4.歴史教育委員会経費	0	0	
	5.国際交流委員会経費	72,600	120,000	
	6.史資料問題委員会経費	0	0	
	7.文献賞経費・吉田久一研究奨励賞	138,532	100,000	選考に要する費用として
	8.右田研究奨励基金審査委員会	0	30,000	選考に要する費用として
	9.50 周年事業委員会経費	0	45,000	アルバイト代、郵送費、コピー・トナ ー代、交通費
	10.社会福祉史辞典編集委員会経費	0	0	
3.学会連合等会費	50,000	50,000		
5.繰入金支出	963,604	685,704		
経常支出計		3,692,755	3,550,704	

## (2) 2024 年度 特別会計資金収支予算書

勘定科目		2023 年度 繰越金(a)	2024 年度 入金予定(b)	2024 年度 出金予定(c)	残高 (a)+(b)-(c)
入金  出金	1.社会事業史学会文献賞副賞*1	5,830,799	0	400,000	5,430,799
	2.吉田久一研究奨励賞副賞 *2	25,210,366	215	1,000,000	24,210,581
	3.右田基金副賞	10,000,266	84	0	10,000,350
	4.すみ基金 *3	7,707,802	180	465,247	7,242,735
	5.指定寄付金	2,001,130	36	0	2,001,166
	6.50周年記念事業 *4	2,334,753	0	2,334,753	0
	7.40周年記念事業指定寄付 *5	690,000	0	690,000	0
	合計	53,775,116	515	4,890,000	48,885,631

\*1 文献賞 2 件

\*2 刊行費助成 1 件

\*3 学会 50 年史

\*4 学会 50 年史、社会福祉史辞典

\*5 学会 50 年史

\* 「50周年記念事業」は、2022年度通常総会において新設された特別会計の科目。(2021年度にすみ基金から50周年事業(学会50年史:180万円、50周年記念論文集:350万円、社会福祉史辞典:100万円)に振り替えた(「2022年度通常総会資料」より)630万円の中から、2022年度に50周年記念論文集3,965,247円が執行された。残額は学会50年史、社会福祉史辞典のために出金予定。ただし、50周年記念論文集の支出が予算超過したため、不足分は「すみ基金」から支出される。

## ◆◆理事・監事（2024年度-26年度）の選挙結果◆◆

◆選挙人：272人（オンライン246人、郵送26人）

※郵送投票希望者0人、アドレス不明のため郵送投票となった：26人

◆オンライン投票：投票者：82人（投票率：30.1%）※郵送投票：1人

◆投票期間：2024年2月23日（金）～3月15日（金）

◆開票：2024年3月18日（月）9時15分から9時55分

（於：美作大学 蜂谷俊隆研究室）

出席者：蜂谷俊隆（委員長）、岡本周佳、木下知威

◆結果：理事 総投票数：246 有効投票：228 無効投票数：18

監事 総投票数：156 有効投票：145 無効投票数：11

郵送投票

理事 総投票数：21 有効投：18 無効・白紙：3

監事 総投票数：14 有効投票：8 無効・白紙：6

### 【理事】

氏名	得票	結果
金子 光一	24	当選
今井 小の実	17	当選
宇都宮 みのり	17	当選
杉山 博昭	15	当選
元村 智明	14	当選

### 【監事】

氏名	得票	結果
今井 小の実	10	理事当選
宇都宮 みのり	9	理事当選
杉山 博昭	5	理事当選
能田 昂	5	当選
石井 智也	5	当選

## ◆◆学会の組織体制・役割分担◆◆

### (1) 理事・監事【任期3年：2024年5月～2027年5月】

- ◆ 理事：金子光一・宇都宮みのり・今井小の実・杉山博昭・元村智明・野口友紀子・石川衣紀・西崎 緑
- ◆ 監事：能田 昂・石井智也

### (2) 社会事業史学会規約第11条及び第12条に基づく役員を選任

学会規約第11条の役員	選出方法	担当者名（所属）
会 長	学会規約第12条：会長および事務局長は理事会において互選	金子光一（東洋大学）
事務局長		宇都宮みのり（愛知県立大学）

### (3) 理事・監事の役割

氏名（所属）	役割（規約第17条に基づく委員会等）
金子光一（東洋大学）	会長／研究倫理委員会（委員長）／日本学術会議担当／日本社会福祉系学会連合担当
宇都宮みのり（愛知県立大学）	事務局長／右田紀久恵基金審査委員会（委員長）／日本社会福祉系学会連合担当／社会学系コンソーシアム担当
今井 小の実（関西学院大学）	編集委員会（委員長）
杉山 博昭（ノートルダム清心女子大学）	吉田久一研究奨励基金審査委員会（委員長）／社会事業史文献賞審査委員会（担当理事）／研究推進担当
元村 智明（東北福祉大学）	大会担当／研究推進担当／若手研究者支援担当
西崎 緑（熊本学園大学）	国際交流委員会（委員長）
野口 友紀子（武蔵野大学）	社会福祉歴史教育委員会（委員長）／若手研究者支援担当
石川 衣紀（長崎大学）	編集委員会（副委員長）／史資料問題委員会（担当理事）／渉外・広報（HP）担当
石井 智也（兵庫教育大学）	社会政策関連学会協議会担当
能田 昂（秋田大学）	社会学系コンソーシアム担当

### (4) 各委員会

- ◆ 編集委員会
  - 委員長 今井 小の実（関西学院大学）
  - 副委員長 石川 衣紀（長崎大学）
  - 委員 橋本 理子（東京成徳短期大学） 柴田 謙治（金城学院大学）
  - 蜂谷 俊隆（美作大学）



- ◆ 史資料問題委員会  
担当理事 石川 衣紀（長崎大学）
  
- ◆ 社会福祉歴史教育委員会  
委員長 野口 友紀子（武蔵野大学）  
委員 倉持 史朗（同志社女子大学） 菅田 理一（鳥取短期大学）  
江連 崇（名寄市立大学） 渡邊 かおり（愛知県立大学）
  
- ◆ 国際交流委員会  
委員長 西崎 緑（熊本学園大学） 伊藤 文人（日本福祉大学）  
委員 田中 友佳子（芝浦工業大学） 大澤 亜里（札幌大谷大学）  
索 宏（東洋大学大学院） 佐竹 要平（日本社会事業大学）
  
- ◆ 社会事業史文献賞審査委員会  
担当理事 杉山 博昭（ノートルダム清心女子大学）  
委員長 小笠原 慶彰（関西福祉科学大学）  
委員 飯田 直樹（同朋大学） 岩永 理恵（日本女子大学）  
大澤 亜里（札幌大谷大学） 蜂谷 俊隆（美作大学）
  
- ◆ 吉田久一研究奨励賞審査委員会  
委員長 杉山 博昭（ノートルダム清心女子大学）  
委員 坂本 道子（聖隷クリストファー大学） 石井 洗二（四国学院大学）  
中野 智世（成城大学） 中嶋 洋（中京大学）
  
- ◆ 右田紀久恵基金審査委員会  
委員長 宇都宮みのり  
委員 必要に応じて委嘱する



## ◆◆その他総会での決定事項◆◆

### (1) 日本・韓国・中国における学術交流の推進に関する覚書について

#### ◆改正の趣旨

三国の学会の合意により、「日本・韓国・中国における学術交流の推進に関する覚書」を以下の通り改訂の上、更新する。

#### 日本・韓国・中国における学術交流の推進に関する覚書 新旧対照表

新	旧
<p>日本・韓国・中国における学術交流の推進に関する覚書</p> <p style="text-align: right;">2024年5月11日</p>	<p>日本・韓国・中国における学術交流の推進に関する覚書</p> <p style="text-align: right;">2021年5月15日</p>
<p>社会事業史学会（日本）と韓国社会福祉歴史学会と中国社会史学会慈善史専門委員会は、社会福祉の歴史に関する学術交流の推進を図るため、以下の点について合意する。</p> <p><b>1. 共同研究の推進</b></p> <p>（1）社会福祉の歴史に関する学術交流を深めるため、日本・韓国・中国の三カ国の学会（以下、三国の学会）は、共同研究の企画について協議する場を設ける。</p> <p>（2）三国の学会は、それぞれの国際交流委員長の意見交換を踏まえて共同研究企画の具体案をまとめ、それぞれの学会理事会に提案し、合意を得て企画実施を図るものとする。</p> <p><b>2. 国際シンポジウムの開催</b></p> <p>（1）三国の学会は、学術大会で国際シンポジウムを行う場合、シンポジストの招聘はその都度協議して決定する。</p> <p>（2）三国の学会は、学術大会において国際シンポジウムを行う場合、シンポジストに必要な通訳の費用は、シンポジウムを主催する学会が負うこととする。</p> <p><b>3. 個人研究発表</b></p> <p>（1）三国の学会は、各々大会を開催する場合、他の二国の学会の所属会員に対して個人研究発表の機会を提供するように努める。大会参加費と懇</p>	<p>社会事業史学会と韓国社会福祉歴史学会と中国社会史学会慈善史専門委員会は、社会福祉の歴史に関する学術交流の推進を図るため、以下の点について合意する。</p> <p><b>1. 共同研究の推進</b></p> <p>（1）社会福祉の歴史に関する学術交流を深めるため、日本・韓国・中国の三カ国の学会（以下、三国の学会）は、共同研究の企画について協議する場を設ける。</p> <p>（2）三国の学会は、それぞれの国際交流委員長の意見交換を踏まえて共同研究企画の具体案をまとめ、それぞれの学会理事会に提案し、合意を得て企画実施を図るものとする。</p> <p><b>2. 国際シンポジウムの開催</b></p> <p>（1）三国の学会は、学術大会で国際シンポジウムを行う場合、シンポジストの招聘はその都度協議して決定する。</p> <p>（2）三国の学会は、学術大会において国際シンポジウムを行う場合、シンポジストに必要な通訳の費用は、シンポジウムを主催する学会が負うこととする。</p> <p><b>3. 個人研究発表</b></p> <p>（1）三国の学会は、各々大会を開催する場合、他の二国の学会の所属会員に対して個人研究発表の機会を各国2報告まで提供するように努める。</p>

親会費の免除は、発表者2名に加え、国際交流を推進するために、会長、副会長、国際交流委員長、国際交流委員から2名を追加することができる。全体で4名までとする。

(2) 三国の学会の大会で個人研究発表を行う者は、所属学会の所属会員であり、かつ所属学会の推薦を受けなければならない。

(3) 三国の学会の大会で個人研究発表を行う場合、必要な通訳は、開催国が用意する。但し、通訳は発表者が手配し、その費用は発表者が負担する。

#### 4. 本覚書の有効期間および改廃

(1) 本覚書の有効期間は、調印の日から3年間とする。ただし、三国の学会の合意により更新することができる。

(2) 三国の学会のいずれかが本覚書の改正または廃棄が必要であると判断したときは、三国の学会の協議にもとづいて改正または廃棄することができる。

【付記】三国の国際交流担当事務局は一定期間で変更することから、これは「覚書」に含めず、年度ごとの変更を認め「別記」する。

【別記】担当事務局および連絡先本覚書に関する事務を担当する事務局の連絡先は、以下のとおりである。

社会事業史学会（日本）事務局

〒480-1342 愛知県長久手市茨ヶ廻間 1522-3

愛知県立大学教育福祉学部宇都宮研究室気付  
TEL: +81-561-76-8702

韓国社会福祉歴史学会事務局

〒03428 ソウル特別市恩平区葛蛄峴路 11-30

社会福祉法人エンジェルスヘブン (ANGELS'

大会参加費と懇親会費の免除は全体で2名までとする。

(2) 三国の学会の大会で個人研究発表を行う者は、所属学会の所属会員であり、かつ所属学会の推薦を受けなければならない。

(3) 三国の学会の大会で個人研究発表を行う場合、必要な通訳と通訳は、発表者が手配し、その費用を発表者が支払うこととする。

#### 4. 本覚書の有効期間および改廃

(1) 本覚書の有効期間は、調印の日から3年間とする。ただし、三国の学会の合意により更新することができる。

(2) 三国の学会のいずれかが本覚書の改正または廃棄が必要であると判断したときは、三国の学会の協議にもとづいて改正または廃棄することができる。

【付記】三国の国際交流担当事務局は一定期間で変更することから、これは「覚書」に含めず、年度ごとの変更を認め「別記」する。

【別記】担当事務局および連絡先本覚書に関する事務を担当する事務局の連絡先は、以下のとおりである。

社会事業史学会事務局

〒480-1342 愛知県長久手市茨ヶ廻間 1522-3

愛知県立大学教育福祉学部宇都宮研究室気付  
TEL: +81-561-76-8702

韓国社会福祉歴史学会事務局

〒03428 ソウル特別市恩平区葛蛄峴路 11-30  
社会福祉法人エンジェルスヘブン (ANGELS'

HAVEN) 法人事務局

<p>HAVEN)法人事務局 TEL: +82-2-357-1701 中国社会史学会慈善史専門委員会事務局 〒410081 湖南省長沙市岳麓区麓山路 36 号 湖南師範大学歴史文化学院 TEL: +86-139-7489-0415</p> <p>(削除)</p> <p>社会事業史学会 (日本) 会長 韓国社会福祉歴史学会会長 中国社会史学会慈善史専門委員会会長</p>	<p>TEL: +82-2-357-1701</p> <p>中国社会史学会慈善史考並委員会力公室 〒410081 湖南省長沙市岳麓区麓山路 36 号 湖南師範大学防史文化学院 TEL: +86-139-7489-0415</p> <p>附則</p> <p><u>三国の学会の共同研究を促進するため、社会事業史学会年次大会、韓国社会福祉学会秋季学術大会、中国社会史学会慈善史専門委員会年度大会において、上記 3 の個人研究発表以外に、三国の学会の所属会員による国際的共同研究の発表の場が得られるように努める。その場合の学会参加費は個人負担とする。</u></p> <p>社会事業史学会会長 韓国社会福祉歴史学会会長 中国社会史学会慈善史専門委員会会長</p>
---	--

## (2)機関誌『社会事業史研究』執筆要項の改定（投稿論文）について

### ◆改正点

- (1) 投稿論文の送付方法を、紙媒体の郵送から、電子データの送信に変更する。
- (2) 掲載決定原稿は、タイトル、著者名、所属等を、掲載時の配置に近い状態にして入稿する。
- (3) 英文タイトル及び、英文抄録の校閲方法を変更する。
  - ・第 64 号：掲載決定→（編集委員会英文校閲—ネイティブチェック）→投稿者に修正案提示
  - ・第 65 号以降：投稿者がネイティブチェックを受ける（推奨）→投稿→査読→掲載決定

### 『社会事業史研究』執筆要項（新旧対照表）

新	旧
<p>10. 投稿原稿の提出にあたっての留意事項</p> <p>(1) <u>本文は、原則として縦置き A4 判用紙に横書きで、1600 字（40 字×40 行）で作成し、3 枚の表紙とともに、電子データを提出する。本文の下部には、通しページ番号を付ける。</u></p> <p>(2) 投稿に際しては、<u>原稿の本文にはタイトル（英文タイトルも併記する）のみを記載し、所属、氏名、会員番号を記載しない。</u></p> <p>(3) 表紙の 1 枚目は、①タイトル（和文および英文）、②原稿の種類、③原稿の文字数、④所属、</p>	<p>10. 投稿原稿の提出にあたっての留意事項</p> <p>(1) 原則として縦置き A4 判用紙に横書きで、1600 字（40 字×40 行）で印字した原稿を、必ず 3 部提出する。本文の下部には、通しページ番号を付ける。</p> <p>(2) 投稿に際しては、印字した原稿に 3 枚の表紙をつけ、本文にはタイトル（英文タイトルも併記する）のみを記載し、所属、氏名、会員番号を記載しない。</p>

<p>氏名（英語表記も記載し、連名の場面は全員）、 ⑤連絡先（郵便番号・住所・電話番号・メールアドレス）を記入する。 (4) 表紙の2枚目には、<u>和文タイトル、和文抄録</u>（400字以内）とキーワード（5語以内）を記載する（無記名）。 (5) 表紙の3枚目には、<u>英文タイトル、英文抄録</u>（200語以内）と英文キーワード（5語以内）を記載する（無記名）。 (6) <u>英語を母国語としない投稿者については、投稿前にネイティブ・スピーカーによる英文タイトル及び、英文抄録のチェックを受けることが望ましい。</u> (7) 投稿時には、原稿のみを提出する。電子媒体は、掲載が決定した後に送付する。 (8) 掲載決定通知後の最終原稿は次の通り作成する。 ①本文・註・引用文献は、原則として、ワード・一太郎で保存した電子媒体で原稿を提出する。 ②図表は、本文とは別に1葉ごとにA4判の電子媒体で提出する。図表の挿入箇所は、本文に明記する。なお、特別の作図などが必要な場合には、自己負担を求められることがある。 ③<u>本文のタイトル、英文タイトルの次に、著者名と所属を追記する。また、英文抄録の英文タイトルの次に、著者名（英語表記）を追記する。</u></p>	<p>(3) 表紙の1枚目は、①タイトル（和文および英文）、②原稿の種類、③原稿の文字数、④所属、氏名（英語表記も記載し、連名の場面は全員）、⑤連絡先（郵便番号・住所・電話番号・メールアドレス）を記入。 (4) 表紙の2枚目には、和文抄録（400字以内）とキーワード（5語以内）を記載する（無記名）。 (5) 表紙の3枚目には、英文抄録（200語以内）と英文キーワード（5語以内）を記載する（無記名）。 (6) 投稿時には、原稿のみを提出する。電子媒体は、掲載が決定した後に送付する。 (7) 掲載決定通知後の最終原稿は次の通り作成する。 ①本文・註・引用文献は、原則として、ワード・一太郎で保存した電子媒体で原稿を提出する。 ②図表は、本文とは別に1葉ごとにA4判の電子媒体で提出する。図表の挿入箇所は、本文に明記する。なお、特別の作図などが必要な場合には、自己負担を求められることがある。 ③タイトル、英文タイトルの次に、著者名と所属の表記を追記する。</p>
--	--

(3) 社会事業史文献賞の選考に関する申合せ、吉田久一研究奨励基金・右田紀久恵女性史研究基金の選考に関する申合せについて（新設）

◆提案理由－これまで選考基準に関する申合せがなかったため。

<p>社会事業史文献賞の選考に関する申合せ 2023.12.2 第4回社会事業史学会理事・監事会採択 1. 〈選考基準〉社会事業史文献賞審査委員会は、賞の趣旨に照らし合わせて、次の項目を基準として選考する</p> <p>1) 審査対象が著書・論文の場合</p> <p>① 研究の目的と意義の明確さ</p> <p>② 研究方法の適切さ</p> <p>③ 研究テーマの独創性・先駆性</p> <p>④ 記述のわかりやすさと論理性</p>
--

- ⑤ 結論・主張の妥当性
- ⑥ 社会事業史研究への貢献の可能性

## 2) 審査対象が翻訳の場合

- ① 学術的価値
- ② 翻訳のわかりやすさと適切性
- ③ 社会事業史研究への貢献の可能性

## 3) 審査対象が編纂文献の場合

- ① 編纂の目的と意義の明確さ
- ② 編纂方法の適切さ
- ③ 編纂テーマの独創性・先駆性
- ④ 解説文等の記述のわかりやすさと論理性
- ⑤ 解説文等の結論・主張の妥当性
- ⑥ 社会事業史研究への貢献の可能性

## 2. 〈選考手順〉

- ① 事務局は審査委員長及び審査委員あてに審査依頼状、審査対象物、審査結果用紙を送付する。
- ② 審査委員長及び審査委員は、審査結果用紙(様式 1)の選考基準の各評価項目について 5 段階の評価点を記載し、その上で総合評価とその理由を記載する。審査結果用紙を期日までに事務局に送付する。
- ③ 事務局は各委員から届いた審査結果をまとめて審査委員長に送付する。
- ④ 審査委員長は審査委員会を招集する。
- ⑤ 審査委員長は審査委員会の決定を所定の用紙(様式 2)に記載し、期日までに理事・監事会に提出する。
- ⑥ 理事・監事会は審査委員会から提出された審査結果をもとに審議し、最終的に決定する。

## 3. 〈選考方法〉

- ① 審査委員会は審査委員の過半数の出席により成立し、可否は出席委員の過半数をもって決する。ただし、可否同数の場合あるいは複数の候補からさらに選出する場合は、選考基準の評価項目の評価点を総計し、順位が上位のものについて審査委員会で総合的な討議を行い、最終的に候補を決定する。評価点の総計も同点だった場合は、審査委員長の決するところとする。
- ② 審査委員会を欠席する場合、出席する委員に委任することができる。

## 4. 〈その他〉

- ① 審査委員は社会事業史文献賞の推薦者になることはできない。
- ② 審査委員が被推薦者となった場合は、その年度の審査を辞退する。共著者の場合も同様とする。
- ③ 審査委員会は非公開とし、審査委員は審査内容について他言しない。
- ④ 本申合せは、理事・監事会の議を経て改訂される。

## 吉田久一研究奨励基金・右田紀久恵女性史研究基金の選考に関する申合せ

2023.12.2 第4回社会事業史学会理事・監事会採択

1. 〈選考基準〉吉田久一研究奨励基金審査委員会、右田紀久恵女性史研究基金審査委員会は、各基金の趣旨に照らし合わせて、次の項目を基準として選考する。

1) 吉田久一研究奨励基金(刊行費助成)および右田紀久恵女性史研究基金(出版助成)の場合

- ① 研究の目的と意義の明確さ
- ② 研究方法の適切さ
- ③ 研究テーマの独創性・先駆性
- ④ 記述のわかりやすさと論理性
- ⑤ 結論・主張の妥当性
- ⑥ 社会事業史研究への貢献の可能性

2) 吉田久一研究奨励基金(研究費助成)の場合

- ① 研究の目的と意義の明確さ
- ② 研究方法の適切さ
- ③ 研究テーマの独創性・先駆性
- ④ 研究のための準備状況
- ⑤ 研究計画および予算計画の妥当性
- ⑥ 社会事業史研究への貢献の可能性

2. 〈選考手順〉

- ① 事務局は審査委員長及び各審査委員あてに審査依頼状、審査対象物、審査結果用紙を送付する。
- ② 審査委員長及び各審査委員は、審査結果用紙(様式1~3の該当用紙)の選考基準の各評価項目について5段階の評価点を記載し、その上で総合評価とその理由を記載する。審査結果用紙を期日までに事務局に送付する。
- ③ 事務局は各委員から届いた審査結果をまとめて審査委員長に送付する。
- ④ 審査委員長は審査委員会を招集する。
- ⑤ 審査委員長は審査委員会の決定を所定の用紙(様式4~5の該当用紙)に記載し、期日までに理事・監事会に提出する。
- ⑥ 理事・監事会は審査委員会から提出された審査結果をもとに審議し、最終的に決定する。

3. 〈選考方法〉

- ① 審査委員会は審査委員の過半数の出席により成立し、可否は出席委員の過半数をもって決する。ただし、可否同数の場合あるいは複数の候補からさらに選出する場合は、選考基準の評価項目の評価点を総計し、順位が上位のものについて審査委員会で総合的な討議を行い、最終的に候補を決定する。評価点の総計も同点だった場合は、審査委員長の決するところとする。

- ② 審査委員会を欠席する場合、出席する委員に委任することができる。

#### 4. 〈その他〉

- ① 審査委員が吉田久一研究奨励基金、右田紀久恵女性史研究基金の申請者になることを妨げない。ただし、申請者となった審査委員はその年度の審査を辞退する。
- ② 各審査委員会は非公開とし、審査委員は審査内容について他言しない。

### (4) 吉田久一研究奨励基金・右田紀久恵女性史研究基金の「募集要項」の一部改訂について

◆主な変更点：①締切設定としての「当日消印有効」を「必着」とする。

②提出書類の部数を1部ずつから5部(審査委員数)ずつへと変更する。

③「研究成果の公表」欄の、( )書きの原稿の種類を削除する。

◆提案理由：①問合せがあったことで問題点が浮上したため。海外から応募する場合、現行の「消印有効」の規定においては、数週間遅れて届いたものでも受理することになるが、審査は元々短期間で依頼しているため、審査委員の負担を今以上に増加させることができない。②次年度以降の事務局業務の軽減のため。③詳細すぎる情報のため。

### (5) 第41回社会事業史文献賞・第14回吉田久一研究奨励賞について

◆社会事業史学会文献賞への推薦：5件あり

社会事業史学会文献賞審査委員会における審査の結果、2件に授与することとなった。

(本 newsletter p5-7 参照)

◆吉田久一研究奨励基金

・吉田久一研究奨励賞(研究助成)への応募：なし

・吉田久一研究奨励賞(刊行費助成)への応募：2件あり

吉田久一研究奨励基金審査委員会における審査の結果、吉田久一研究奨励賞(刊行費助成)の採択件数1件であった。(本 newsletter p7-8 参照)

### (6) 他組織・団体との連携・協働について

◆社会政策関連学会協議会

2024/3/9 社会政策関連学会協議会シンポジウム「学術の役割を考える」をオンラインにて開催

◆社会学系コンソーシアム

2024/1/21 第16回評議員会オンラインにて開催(西崎・宇都宮出席)

2024/3/9 社会学系コンソーシアム2023年度(第16回)シンポジウム「なぜ、社会的孤立は問題なのか？」オンラインにて開催

◆日本社会福祉系学会連合

2023/10/03 加盟学会宛学会調査の案内、10/10-11/10 調査実施



2023/10/27 学会連合ニュースレター発行 <http://jaswas.wdc-jp.com/>

2023/11/13 2023年度補助金制度に2学会（日本保健医療社会福祉学会/日本福祉文化学会）申請を承認。

#### ◆その他

2023/10/22「研究者の交流に関する調査」（文部科学省の調査）への協力

2022年度中に「主催した国際的な研究集会（研究成果等に関して研究者が発表、議論、質疑応答などをする集まりのうち、外国機関からの参加者がいる集会）」の設問に対して、第50回大会（オンライン開催・参加者国内機関所属128人、海外機関所属4人）の開催を回答。

### (7) 第53回社会事業史学会全国大会・第14回若手研究者研究交流会・通常総会の開催について

#### ◆開催日程

第14回若手研究者研究交流会 2025年5月10日（土）

第52回社会事業史学会全国大会 2025年5月10日（土）～11日（日）

2024年度社会事業史学会通常総会 2025年5月11日（日）

#### ◆開催場所

弘前学院大学 〒036-8577 青森県弘前市稔町13-1 (<https://hirogaku-u.ac.jp/>)

## ◆◆事務局からの連絡とお願い◆◆

### (1) 『社会事業史研究』への投稿について

HPに掲載されている投稿規程及び執筆要項に従って、必要書類を作成の上、編集委員会まで送付してください。会員の皆様奮ってご応募ください。投稿先は以下の通りです。

社会事業史学会編集委員会

E-mail: [journal.jshssw\[at\]gmail.com](mailto:journal.jshssw[at]gmail.com) ([at]を@にして送信してください)

※電子投稿になりました。

### (2) 社会事業史文献賞の推薦のお願い

- ◆ 社会事業史学会では、研究の奨励と質の向上を図ることを目的として、1982年に「社会事業史文献賞」を創設して以来、優れた社会事業史研究成果を表彰しています。この度、下記の要領にて第43回社会事業史文献賞の候補を募集しますので、推薦をお願いいたします。
- ◆ 本学会会員による、原則として、2023年4月より2024年3月に至る1か年に発行（公表）された社会事業史関係著書・論文・翻訳及び編纂文献を審査対象とします。但し、原則として過去において本賞を受賞した会員による文献についてはこれを除きます。
- ◆ 本学会会員からの推薦（自薦を含む）とします。

- ◆ 本学会に設置する「社会事業史学会文献賞審査委員会」において審査の上、1名を選考します。受賞者の発表は総会において行います。総会において会長より賞状と副賞（20万円）が贈呈されます。
- ◆ 「社会事業史文献賞推薦用紙」は、同封の用紙もしくは社会事業史学会ホームページからダウンロードした所定の用紙を使用し、必要事項をご記入のうえ、2024年10月末日（必着）までに、事務局まで郵送もしくはメールにより提出してください。自薦の場合、可能であれば自著5冊を事務局までお送りください。
- ◆ 文献賞にふさわしい研究書をぜひご推薦ください。

◆

### (3) 吉田久一研究奨励基金の募集について

- ◆ 社会事業史学会では、社会福祉史研究の質の向上、進展をはかることを目的として、2010年より吉田久一研究奨励基金（2022年5月に改称）の授与を開始し、優れた若手研究者の研究を奨励しています。この度、下記の要領にて第15回吉田久一研究奨励基金の募集をしますので、積極的な応募をお願いいたします。
- ◆ 「研究費助成」に該当するテーマを有する個人、もしくは「刊行費助成」に該当するテーマを有する個人又はグループ代表者が応募資格を有します。
- ◆ 本学会に設置する「吉田久一研究奨励基金審査委員会」において審査の上、「研究費助成」は3名以内、「刊行費助成」は1件を採択します。採択者の発表は総会において行います。総会において会長より助成金（研究費助成1件当たり30万円、刊行費助成1件当たり100万円）が授与されます。
- ◆ 社会事業史学会ホームページより、所定の申請書一式をダウンロードし、必要事項をご記入のうえ、2024年12月1日（必着）までに、事務局まで郵送してください。
- ◆ 会員の皆様、奮ってご応募ください。

◆

### (4) 右田紀久恵女性史研究基金の募集について

- ◆ 社会事業史学会では、社会事業／社会福祉分野において開拓的な役割を果たした女性についての研究を奨励し、その研究成果を「出版」することを目的として、学会創設50周年を機に、右田紀久恵女性史研究基金（出版助成）の授与を開始し、優れた研究を表彰しています。この度、下記の要領にて右田紀久恵女性史研究基金（出版助成）を募集しますので、積極的な応募をお願いいたします。
- ◆ 個人研究の場合は、原則として、応募締切日において2年以上の会員歴を有すること。グループ研究の場合は、原則として、社会事業史研究を行う2名以上のグループを対象とし、メンバー代表者が応募締切日において2年以上の会員歴を有すること。
- ◆ 本学会に設置する「右田紀久恵女性史研究基金審査委員会」において審査します。採択者の発表は総会において行います。総会において会長より助成金（100万円を上限とする）が授与されます。
- ◆ 社会事業史学会ホームページより、所定の申請書一式をダウンロードし、必要事項をご記入のうえ、2024年12月1日（必着）までに、事務局まで郵送してください。
- ◆ 会員の皆様、奮ってご応募ください。

## (5) 2024 年度会費納付のお願い

- 株式会社ガリレオより会員の皆様に会費納付のお願い通知が届いていると思います。まだお振込みいただいていない会員の皆様は、早めに今年度会費（8,000 円）をお振込みください。

よろしくお願ひします



年会費（8,000 円）の  
振込先口座番号

ゆうちょ銀行

01730-8-125532

社会事業史学会

## ◆◆問合せ先◆◆

◎会費や入退会についての問合せ

◎住所変更・メールアドレスの登録



〒170-0013

東京都豊島区東池袋 2-39-2-401

(株)ガリレオ内

問合せフォーム：<http://shakaijigyoushi-gakkai.com/n4P1n0>

FAX ☎ 03-5981-9852

◎学会運営に関する問合せ



〒480-1198

愛知県長久手市茨ヶ廻間 1522-3 愛知県立大学教育福祉学部社会福祉学科

社会事業史学会事務局 宇都宮みのり

問合せフォーム：<http://shakaijigyoushi-gakkai.com/n4P1n0>

✉ [utu\(@\)ews.aichi-pu.ac.jp](mailto:utu(@)ews.aichi-pu.ac.jp)



## ◆◆事務局◆◆

〒480-1198

愛知県長久手市茨ヶ廻間 1522-3 愛知県立大学教育福祉学部社会福祉学科

社会事業史学会事務局 宇都宮研究室 ✉ [utu\(@\)ews.aichi-pu.ac.jp](mailto:utu(@)ews.aichi-pu.ac.jp)